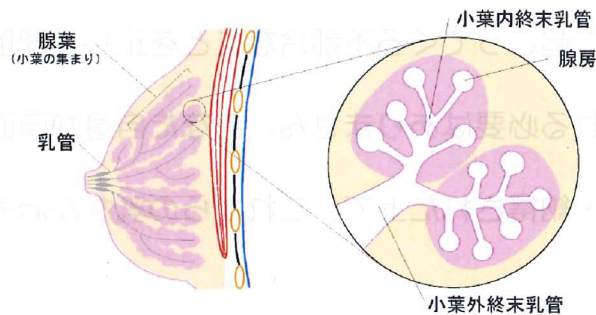


## 乳房のしくみ



乳房は乳汁（ミルク）を作るための“乳腺”と呼ばれる腺組織と脂肪組織からできています。乳汁を作っている小さな“腺房”が集まって“小葉”というかたまりになります。そして“小葉”がいくつか集まって“腺葉”となり、その腺葉がおおよそ 15-20 ほど集まって乳腺組織となります。それぞれの小葉に細乳管（ミルクが流れる通り路）がつながっていて、細乳管が集まり次第に腺葉単位で太い乳管となります（小さな川から大きな川へと集合していくように）。太い乳管は乳頭につながっていて、腺房で作られたミルクを乳頭へ運びます。年齢の変化とともに線組織は萎縮し、その代わりに脂肪・結合組織に置き換えられます。



## 乳がんの発生



乳がんは“終末細乳管”（乳管がん）や“小葉内乳管”（小葉がん）の細胞から発生します。

乳がんは図のように非浸潤がんと浸潤がんに分けることができます。非浸潤がんは転移が起こる可能性は非常に少なく、その治療成績は良好です。浸潤がんは周囲の脂肪組織に広がっているため、がん細胞が乳腺内のリンパ管や血管に侵入し、その結果リンパ節の転移や乳腺外の組織、すなわち骨・肺・肝などの遠隔臓器に転移が起こってくる可能性があります。



### 非浸潤がん

がん細胞が乳管や小葉の中にとどまっているもの



### 浸潤がん

がん細胞が乳管や小葉の外に出ているもの